

## 原子力規制委員会記者会見録

- 日時：平成30年5月23日（水）
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：更田委員長 他

### <質疑応答>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制委員会の定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、ナガノさんからお願いします。

○記者 新潟日報のナガノです。よろしくお願いします。

今日の午前中の定例会合のダクトの腐食の関係で、東京電力の柏崎刈羽にも腐食の孔があったということで、特に3号機の孔も大きいというところで、まず、安全性に対して、どのぐらい現状で委員長として問題視されているのかという認識を教えてくださいますか。

○更田委員長 これは繰り返し申し上げていることですがけれども、中央制御室の換気空調系に関して、空気取り入れ側のラインに関しては、極端な話、孔があったところで、空気取入口なので問題ないのだけれども、事故が起きて、制御室が放射性物質を含んだブルームに襲われようとしているときは、外気を取り入れないで再循環運転に入る。そのループのどこかに孔があると、インリーク、要するに、外から外気を取り込んでしまうので、そのときに放射性物質を含んだ外気を取り込んでしまうと、中央制御室にいる人が被ばくの危険にさらされる。要するに、それが安全にかかわる関心事項なので、再循環モードで運転するときのループの中に孔があるかどうか。また、多少の小さな孔であったらば、わずかにインリークがあったところで、被ばく量に換算したところで有意な影響にはならないだろう。ただ、でかい孔があいていれば話は別だと。

そういう意味で、今、柏崎刈羽で言うと、3号機は腐食の程度が比較的大きくて孔が大きい。これは速やかに是正してもらおう。7号機に関しては、孔の寸法から考えて、あの状態で再循環運転をやったところで、おそらく被ばくに対する影響は有意ではないだろうとは見えています。

○記者 今、7号機の話がありましたけれども、7号機は一応、審査自体は、まだ後段の審査はありますけれども、一通り終わっていると思いますけれども、今後の審査にこの問題は何か影響があるのでしょうか。

○更田委員長 審査ということではないと思いますけれども、既に許可を出しているものは基本設計に対するものであるもので、基本設計は再循環であっても、制御室にいる要員

に対して影響を与えない方針がとられていることということで、基本設計上の許可の段階で問題になるような話ではないけれども、今後、東電が、例えば、プレフィルターを設けるとか、何か対策をとるのだったら、その詳細設計について見る可能性もあるし。ただ、おそらく後段においてもそんなに大きな論点になるとは思わないです。

○記者 分かりました。今日の最後なのですけれども、石渡委員から今回の調査結果について何らかの規制に反映する、教訓を生かすのかみたいな発言があったと思うのですが、こちらについての御対応を改めて。

○更田委員長 私はあのとき特に発言はしませんでしたけれども、規制にというよりは、むしろ事業者の対応に教訓とすべきところが非常に大きいと思います。私たちとしては、基本的に再循環運転をしたときにインリークのないようにというのが規制が考えるべき要求であって、それをどう実現しようかというのは、まずは事業者の選択の問題であらうと。PWRのプラクティスにならってプレフィルターをつけるのも一つの方策だろうし、あるいは保全頻度を上げるというやり方もあるだろうし。そう思っています。

○記者 ありがとうございます。

○司会 御質問のある方。ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。よろしくお願いします。

泊出張の延長の質問なのですが、この間、詳しくはお伺いできなかったのですが、今後の地層系の審査なのですが、あのとき委員長がおっしゃったのは、いわゆる火山灰層は見つかっていないけれども、段丘堆積層の下に岩内層というものがあると。ということは、その岩内層というものを、ないとされた火山灰層の年代と一旦考えて、論理的に組み立ててみたらいかがかということをおっしゃっていたように聞こえたのですが、この認識は正しいでしょうか。

○更田委員長 具体的には直近の審査会合に当たってもらえれば。あれは私は審査会合でこちらの審査官が伝えたコメントを繰り返しているだけのものなので、今、ボールは、その点に関して言えば、北海道電力にあって、規制庁職員の指摘を仮定して、それで論理が破綻しないかどうか、まずきちんと組み立ててみると。それが可能かどうかというボールが投げられている状態ですので、次の審査会合等でレスポンスが戻ってくるのではないのでしょうか。

○司会 御質問のある方はいらっしゃいますか。タケオカさん。

○記者 共同通信のタケオカと申します。

先ほどのダクトの話なのですが、プレフィルタの話がありましたが、今回、腐食が見つかったのは沸騰水ばかりでしたけれども、この沸騰水と加圧水の設計上の違いというのも、腐食があった、なかったについて影響しているのでしょうか。

○更田委員長 おそらく影響はないと思います。ですから、別にBWRで、これは詳細を私が

直接聞き取ったわけではありませんけれども、想像するにPであろうとBであろうと、中操の空調換気系を同じように設計して差し支えないだろうと思いますし、ですから、プレフィルタがついている、ついていない等々の対策のとり方も、三菱、東芝、日立それぞれの設計ということだろうと思います。

○記者 それと、今回、島根2号機1か所ではなくて、結構、全国で何か所も同じような問題が出たのですけれども、そこも何かやはり共通の原因があるということなのでしょう

か。  
○更田委員長 我が国の原子力発電所は海岸沿い、海沿いに立地されていますから、塩水・潮風の影響を受けるというのは共通なのだろうと思います。ですから、どこも、もちろん影響の強弱はあるのでしょうけれども、同じ要因だと思います。

○記者 最後に、不勉強で恐縮なのですが、原発が停止しているということが今回の腐食に影響するのでしょうか。通常だったら常に空気を流しているところなのに、停止だから滞留というか、よどみによって腐食が発生したということはあるのでしょうか。

○更田委員長 少し考えにくいですが。実際、停止しているからといって、中操の換気系を動かさないわけではないので、特段、停止していることの影響だとは思わなくて、むしろ玄海の3号機で二次系の蒸気漏れの場合は、あれは屋外にある配管が外側から腐食した。

これは動かし続けている原発であれば、年に少なくとも11か月とか13か月とか温かい状態が続いて、数か月冷たい状態があって、また11か月、13か月温かい状態が続いてです。乾いているわけですよ。だけれども、数年間にわたって温まることがなかった。屋外にあった配管が外面側から腐食してしまった。これはそもそもずっとそんなに冷たい状態にいる、濡れた状態のまま放ったらかされることを設計は当初想定していないでしょうから、普通の炭素鋼で作られていて、外面から。ですから、これは明らかに長期停止の影響というのはあると思います。ただ、空調の場合は、それほど停止の影響というのはちょっと考えにくいですね。

○司会 マツヌマさん。

○記者 赤旗のマツヌマです。

週末に新潟で柏崎刈羽原発の許可に関する住民説明会があったわけですが、その中で質問として多かったのが、フィルタベントなどの液状化の影響、これについて、許可後に東電が出してきたと。これに関して、やはり繰り返しかかなりの数の質問が多かった。重要機器のそういう成立性にかかわる問題として、ちょっと納得できないというような声が相変わらず多かったと思うのですけれども、これに関して委員長の受けとめを伺いたいと思ったのですが。

○更田委員長 許可後にというわけではなくて、許可前の審査会合の資料でも既に液状化については触れられていて、液状化の可能性があれば対策をとりますと。であるから、

それで許可に結びついているわけであって、工認でその対策が妥当なものであるかどうかを見るというのは、これまでも説明しているとおりのので、許可後にというのは、やはり東電のコミュニケーションの仕方のまずさというのはすごくあると思っていますけれども、私たちとしては、液状化の可能性と東電から聞いて、何ら驚いたわけでもありませんし、それは液状化の可能性があったら、対策をきちんとしてくださいと言うのみであります。

○司会 ほかほかございますでしょうか。それでは、以上でよろしいですか。  
それでは、本日の会見は以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—